

2026年8月26日

DENSO KOBELCO SARD GR Supra 第5戦鈴鹿、まさかのトラブルで無念のリタイアに



SUPER GT 第5戦鈴鹿レポート

2026 SUPER GT 第5戦「SUZUKA GT 300km RACE」(8/22-23)

鈴鹿サーキット(1周5.807km)

入場者数：予選20,500名、決勝32,000名 合計52,500名

8月23日（日）SUPER GT第5戦「SUZUKA GT 300km RACE」の決勝が行われ、13番グリッドからスタートしたDENSO KOBELCO SARD GR Supraを駆る関口が整然としたスタートの中で、落ち着いた走りペースを守って走行。前を行くクルマに連なって戦略的に走行した序盤。上位陣がピットインして前が空くと搭載燃料が軽い状態で速いペースでピットインを伸ばすオーバーカット戦略を取行。7-8位ぐらいに戻れるタイミングとなった33周を終えサッシャと交代すべくピットイン。だが、素早いピット作業中にまさかの右フロントタイヤのホイールナットトラブルが発生。戦列復帰が叶わずの無念のリタイアを喫し、ドライバーポイントおよびチームポイントは獲得ならず、ともにシリーズランキング10位となった。次戦は9月19日（土）・20日（日）にスポーツランドSUGOにて開催される。

■事前情報

前戦では奮闘を見せて貴重なポイントを獲得。現在、ドライバー/チームランキングとも5位につけているDENSO KOBELCO SARD GR Supra。今季4戦目となる第5戦の舞台は鈴鹿サーキット。8月22日（土）午前に公式練習、午後にノックアウト方式（Q1、Q2）の公式予選、23日（日）決勝は13時30分スタートの300km（52周：約2時間）で争われ、ピットストップは1回で1人のドライバーの最大運転周回数は34周まで。サクセスウェイトは現獲得ポイントの倍となる34kgを搭載する。重量増による鈴鹿でのタイムの落ち込みは、34kgだと約0.7秒ほど。タイヤの持ち込みセット数は、ドライ4/ウェット6セット（うち1セットはヘビーウェット対応用）で決勝スタートまで使えるドライのマーキングは4セットとなる。

今回、22日（土）夕方のキッズウォーク後には恒例のファンミーティングを鈴鹿サーキット内レストランSUZUKA-ZEで行う。このファンミを鈴鹿で行うようになってから決勝では表彰台を2回獲得や昨年は最後尾から6位まで挽回など、チームはファンからの心強い熱い応援のチカラを受けて戦える貴重なイベントとなる。また、チーム本拠地に近いため株式会社デンソーさま、株式会社神戸製鋼所さまを筆頭にチームパートナー/ゲストなどの応援者が総勢150名ほど大挙して訪れ、大きな後押しとなる大応援団を支えに臨む。この折り返しとなる第5戦は、シリーズタイトル争いに食らいついていくため



にランキングトップとの差を埋めるべく、まさに一步も後に引けない重要な一戦。持てるチカラを振り絞り、ドライバーの卓越した速さ、マシンの仕上げ、チームワーク、ピットを含む戦略を高い次元で結集して最大ポイントを掴み取りたいところ。タフな戦いが予想されるが、心強い大応援団の声援をチカラに、脇阪寿一監督のもとチーム一体となって、タイトル争いへの道を自ら切り拓くべく、最後まで諦めず意気盛んに勢い良く、活潑^{かっぱつぱつ}活潑に勝利を目指していった。

■公式練習走行

22日（土）9時45分から開始された公式練習走行は、気温31度/路面温度37度の晴れ。最初の60分間の混走セッションではサッシャがハード側ドライタイヤを装着して開始早々にコースイン。5周目に1分48秒687でその時点で3番手タイム。その後、ストップ車両があったため約17分間中断。再開後2度目の赤旗中断はデグナー2つめの出口にオイル出て、それにのったクルマが次々コースアウトするアクシデントが発生。サッシャもデグナーまで全開走行であったが監督からの無線で直前にスローダウン。間一髪で難を逃れた。その後、処理に20分間費やして走行が再開。関口がステアリングを握ってコースインし、決勝へ向けたロングラン評価メニューを実施した。10分間延長されたものの、非常に走行時間が短くなった混走セッションではトータル19周を走り込み、サッシャが5周目にマークした1分48秒687のタイムで8番手となった。



10分間のGT500単独セッションでは気温33度/路面温度47度に上昇。関口が新品のソフト側ドライタイヤを装着して予選のアタックシミュレーションを5周にわたって実施。4周目アタックモードに入り、セクター1を29秒6、セクター2を18秒1、セクター3を39秒9、セクター4を20秒1と、クルマのフィーリング自体は良好であったが、軽いクルマに比べてウェイトの重さの影響以上にタイムが伸びず、僅差となったGT500単独セッションで僅かに遅れ、1分47秒859の11番手タイムとなった。

■公式予選

■Q1：サッシャがQ1で13番手タイム

22日（土）16時03分と通常よりも遅い時間帯で開始されたQ1は気温33度/路面温度43度と少し下がり始めたコンディション。ハード側ドライタイヤを装着して1分半ほど待ってからピットを出たサッシャは、タイヤを丁寧に温めて5周目にアタックを開始した。セクター1で29秒5、続くセクター2とトップと遜色ないタイムで駆け抜け17秒7、セクター3で遅れてしまい39秒8、セクター4で巻き戻し19秒9とチェッカー時点でQ1突破圏内タイムとなったが、僅差の争いの中で最終的には13番手にバンパアウト。クルマのフィーリングはそこまで悪くはないのだが、依然としてサクセスウェイトを加味しても順位が伴わないという状況が改善できず、1分46秒957の13番手タイムでQ2進出を逃す結果に。決勝へ向けて一層のデータ解析と、クルマを細かい部分も含めイチから見直し、深夜まで作業を続けることとなった。また決勝は戦略で前に出られるようにレースストラテジーも様々なパターンを深く見直してシミュレーションして、ここからの挽回を図ることとなった。



■TGR TEAM SARD FAN MEETING 2026 in SUZUKA

22日（土）キッズウォーク後に恒例となったファンミーティングを鈴鹿サーキット内レストラン「SUZUKA-ZE」にて開催。約80



名のファンに囲まれ、関口、脇阪監督、司会の宮瀬七海、KOBELCO GIRLS、SARDイメージガール、WAKO'S GIRLSが華やかに彩り、トークショーやクイズ「サード王は誰だ！」「お楽しみクジ」、最後は全員で「バイキング・ロー」で締めるなど、誰もが笑顔いっぱい楽しい真夏の夜のひとときをファンと供に過ごし、激アツの大声援で大きなチカラと元気をいただいた鈴鹿決戦前夜となった。

■決勝

■ウォームアップ走行

23日（日）12時から20分間のウォームアップ走行は、気温33度/路面温度47度のコンディション。最初に関口がタイヤ皮むきとクルマの確認で7周走行。続いてサッシャが8周目から最後まで走行し、トータルでは12周を走行して、関口が6周目にマークした1分50秒237の12番手で決勝への準備を整えた。

■決勝レース

第1スティント：関口がスティント後半にペースアップでオーバーカット戦略を遂行

23日（日）13時30分の決勝スタート時点は気温34度/路面温度49度の晴れ。13番グリッドからスタートしたDENSO KOBELCO SARD GR Supraを駆る関口が整然としたスタートの中で、落ち着いた走りでもペースを守って走行。前を行くクルマに連なって戦略的に走行した序盤。途中、FCY導入において、FCY手順を遵守できず規定速度よりも遅いGT300車両に引っかかり10秒ほど大きくタイムロスしたが、上位陣がピットインして前が空くと搭載燃料が軽い状態で速いペースでピットインを伸ばすオーバーカット戦略を敢行。ギャップをどんどん削っていき、7-8位ぐらいに戻れるタイミングとなった33周を終え、GT500クラス車両の最後のほうのピットインとなった中、サッシャと交代すべく関口をピットに呼び戻した。



第2スティント：ピット作業でまさかのトラブル発生

関口の戦略的かつ燃料をセーブしながらの走行、スティント終盤のペースアップでタイヤ交換組よりも速いタイムで走行、そしてピットインを遅らせたオーバーカットと大きく順位を上げる作戦は順調に進んでいた。定評の素早く短いピット作業で、リアタイヤ交換、関口が稼いだ短い給油時間と作業はいつもどおり素早く進んでいたが、まさかの右フロントタイヤのホイールナットトラブルが発生。ナットが外れずにタイヤ交換出来ず。そのまま走ることも可能であったが、タイヤの摩耗状況やホイールやハブ周辺の破損の可能性もあったため、戦列復帰が叶わずの無念のリタイアを選択した。



残念ながらポイント獲得はならず、ドライバーポイント（計17点：トップと33点差、2位と16点差）およびチームポイント（計26点：トップと36点差、2位と19点差）ともにシリーズランキング10位となった。次戦は9月19日（土）・20日（日）に杜の都仙台近郊のスポーツランドSUGO（宮城県）にて開催される。



■関口 雄飛



「この週末は、公式練習での走行時間も短くなってしまい、クルマのフィーリングは悪くはないですが、結果うまくアジャストが出来ずに悪い流れのままでした。決勝はFCYで遅いクルマに引っかかりタイムロスしましたが、ピットインを引っ張る戦略でステント終盤はペースアップが上げられました。ピット作業でのトラブルは残念でしたが、それもレース。次のSUGOで挽回を目指します。引き続きの熱い御声援よろしくお願い申し上げます」

■サッシャ・フェネストラズ



「たくさんの応援をアリガトウ！少し熱中症気味になってファンミーティングは欠席してゴメンね。みんな心配してくれて感謝デス。体調は大丈夫。難しい予選になったけど、ロングランやウォームアップ走行で決勝へ向けての手応えがあったし、決勝でのオーバーカットの戦略もうまくいって、ユウヒさんが良い走りをしていただけたに、ピット作業でトラブルが出てしまい、ポイント獲得の機会を失ってしまったのは非常に残念でした。次のSUGOへ向けてもハードワークが続くと思うけど、この状況をひっくり返してみせるよ。またガンバリマショウ！」

■監督 脇阪 寿一



「鈴鹿戦で応援頂きましたスポンサーの皆様、ファンの皆様、今回もありがとうございました。予選後にはファンミーティングも開催して、参加者の皆さんからもたくさんのパワーを頂きました。最近は上手くパフォーマンスが発揮できないという状況が続いていますが、そんな中でもチームの雰囲気は良く、高い意識を保って取り組んでいます。決勝もトラブルでリタイアしましたが、チーム、仲間たちを信じて突き進みます。昨年良い戦いが出来たSUGOから巻き返せる様に取り組めます。引き続き応援よろしくお願いします」

Qualifying Result

Pos.	No.	Car	Driver	Best Time	SW
1	17	Astemo HRC PRELUDE-GT	塚越 広大／野村 勇斗	* 1'45.129	18
2	64	Modulo HRC PRELUDE-GT	大草 りき／I.オオムラ・フラガ	* 1'45.206	0
3	8	#8 ARTA MUGEN HRC PRELUDE-GT	太田 格之進／大津 弘樹	* 1'45.504	32
13	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	1'46.951	34

天候：晴れ時々曇り、コース：ドライ、Timeの*はQ2ベスト

Race Result

Pos.	No.	Car	Driver	Time/Diff	Laps
1	16	#16 ARTA MUGEN HRC PRELUDE-GT	野尻 智紀／佐藤 蓮	1:47'00.904	52
2	17	Astemo HRC PRELUDE-GT	塚越 広大／野村 勇斗	+2.220	52
3	8	#8 ARTA MUGEN HRC PRELUDE-GT	太田 格之進／大津 弘樹	+3.011	52
DNF	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	関口 雄飛／S.フェネストラズ	19Laps	33

天候：晴れ時々曇り、コース：ドライ、5.807km×52Laps

Drivers Ranking

Pos.	No.	Driver	Total
1	36	坪井／山下	50
2	16	野尻／佐藤	33
3	14	福住／大嶋	31
10	39	関口／S.フェネストラズ	17

Point standings after Rd.5

Team Ranking

Pos.	No.	Team	Total
1	36	TGR TEAM au TOM'S	62
2	16	ARTA MUGEN	45
3	14	TGR TEAM ENEOS ROOKIE	42
10	39	TGR TEAM SARD	26

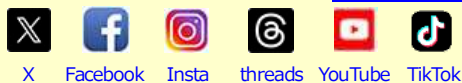
Point standings after Rd.5

Partners



情報参照先

●サード公式サイト : <https://www.sard.co.jp>



●SUPER GT : <https://supergt.net/jp>



■本リリースに関するお問い合わせ先：チーム広報担当：宮本 e-mail: media@sard.co.jp

SARD
株式会社 サード

〒473-0914 愛知県豊田市若林東町上外根50
TEL. 0565-53-1166 FAX. 0565-52-5482

www.sard.co.jp